



Nagasaki
Peace-preneur
Forum

Powered by



実施報告書



Nagasaki
Peace-preneur
Forum

Powered by

YOUNG
WORLD *one* 2024

開催日時 : 2024年5月10日(金)～13日(月)

場所 : 長崎県長崎市

メイン会場 : 出島メッセ長崎

参加者数 : 280名(国内248名、国外25カ国32名)

主催 : One Young World長崎協議会

Eve Festival (5/10)



活水高校 ブラスバンド



One Young World長崎協議会 調会長



One Young World Japan 大久保代表

Eve of Forum/Exchange Party

Eve of Forum

- 活水高校ブラスバンド Opening
- One Young World長崎協議会 会長 調 漸 挨拶
- One Young World Japan 代表理事 大久保 公人様 挨拶
- コモンズ投信(株) 取締役会長 澁澤 健様 挨拶
- 被爆証言会 朝長 万佐男様
- 来賓挨拶 ①長崎県知事 大石 賢吾様 挨拶
- ②長崎市長 鈴木 史朗様 挨拶
- 活水高校ブラスバンド Closing



被爆証言会 朝長様



コモンズ投信 澁澤様



鈴木長崎市長



大石長崎県知事



One Young World 長崎協議会 森副会長



大石長崎県知事



鈴木長崎市長

Eve of Forum/Exchange Party

Exchange Party

- ① Networking events
- ② VIP Dinner

主催者挨拶

One Young World長崎協議会 副会長 森 拓二郎

長崎県知事 大石 賢吾様

来賓挨拶 長崎市長 鈴木 史朗様

乾杯 長崎県議会議長 徳永 達也様

ゲスト挨拶 国際連合事務次長 中満 泉様

コモンズ投信(株) 取締役会長 澁澤 健様

One Young World Japan

代表理事 大久保 公人様

締めの挨拶 長崎市議会議長 每熊 政直様



長崎市議会 每熊議長



長崎県議会 徳永議長



Peace-preneurを育むための2日間の流れ

Talk Session Day (5/11-Day 1)

5/11

初日はゲストスピーカーによるプレゼンテーションやトークセッション、Q&Aを通じて、翌日のワークショップにむけたインスピレーションを獲得します。

- 現在の世界の課題についての共通認識を確認する
- 当事者や専門家から話を伺い問題について社会課題への解像度を高める
- 社会課題解決に向けて具体的に行動する様々な事例を知る

Workshop Day (5/12-Day 2)

5/12

ワークショップは「平和のためのイノベーションの実現」を掲げる本フォーラムにおいて最も重要な要素です。

ワークショップでは以下の3つの要素を軸に実施します。

- 個人や組織ができるアクションを考える
- アイデアをシェアして参加者同士がつながる
- 有識者やパートナー企業を交えてアイデアを具体化する

Day1

5/11

Talk Session Day

Opening Ceremony

オープニング映像

- One Young World長崎協議会 会長 調 漸 挨拶
- Kate Robertson (One Young World共同設立者) 挨拶[映像]
- (株)カトープレジャーグループ
代表取締役社長兼グループCEO 加藤 宏明様 挨拶
- (株)リージョナルクリエイション長崎
執行役員 折目 裕 様 挨拶
- Oscar Anderson 挨拶

開会式はこちらから視聴できます



開会式前の様子



(株)カトープレジャーグループ 加藤様



司会 松本海奈 コーリア瑠奈



(株)リージョナルクリエイション長崎 折目様



One Young World 長崎協議会 調会長



Oscar Anderson

Keynote Session ; 中満 泉 国際連合事務次長



当日の動画はYouTubeでご覧になれます



Keynote Session

Inspiring Messages for Peace-preneurs

中満泉国際連合事務次長

平和の定義と意味について

国連の中満泉事務次長が、若者に向けて平和構築の重要性を説く講演が行われた。その言葉はまさに感動的で、参加者の心を揺さぶった。彼女は「平和とは単に戦争がない状態ではなく、人々が市民的、政治的、経済的、社会的権利を享受できる状態である」と語り、平和の真の意味を再定義した。また、彼女は国連での豊富な経験をもとに、「希望を届けること」や「人々を中心に据えること」が平和構築の基盤であると強調した。

特に印象的だったのは、ボスニアのツズラで出会った80歳の避難民女性の話である。彼女は「国連が日本から若者をこんなに遠くまで連れてくるのなら、きっと何か良いことがあるに違いない」と言った。中満氏はこの言葉から「国連の最も重要な役割は希望を届けることだ」と気づいたという。

Peace-preneurの3つの資質「イノベーション、勇気、情熱」

Peace-preneurの3つの重要な資質として、イノベーション、勇気、希望と情熱があげられた。イノベーションは新しい考え方や視点を取り入れる能力を指す。特にその最前線に立つ若者たちの役割が重要である。人工知能やソーシャルメディアなどは、平和のために活用することが求められる。

勇気については、新しい道を切り開くリスクを取ることや、困難な状況で正しい決断を下すことが含まれている。「勇敢に行動する市民がいる限り、世界は良くなる」と語った。最後が、希望と情熱。平和に投資する方法や社会変革を生み出す方法を知っている若者たちは、楽観的であり、そこに希望があると語られた。

講演では、若者が「平和の起業家（Peace-preneur）」として活躍する具体例も紹介された。完全自律型兵器システムの禁止を求める若い軍縮フェローや、地雷除去のためのドローンを開発した若者たちの取り組みがその一例だ。彼らの活動は、平和のための革新と勇気を体現している。

人間を中心に考えること

中満氏は、地政学的なシフトや技術革新、移住の増加、気候変動などの課題に対して、協力、対話、交渉することの重要性についても言及した。未来を見据え、テクノロジーを（戦争のためではなく）人間の利益のために活用することや、2030年や50年後の世界がより良くなることを信じ、努力することの重要性を力強く語りかけた。



Global Wellbeing

貧困と飢餓、地球環境の悪化、広がり続ける不平等-これらは経済合理性では解決できない問題である。
国を超えた協力が不可欠な個人の幸福の追求のためにできることは何か？

Talk Session 「Beyond GDP」

経済成長というものさしだけでは、ゆたかさを測れない時代になった。GDPを超え、持続可能で、個人の人権を尊重する指標や経済システムとは何か？どうすれば、そのためのパラダイム・シフトを引き起こすことができるのか？

Talk Session 「Technology for Wellbeing」

平和な未来を描くときに、そのビジョンに置き去りにされる人はいないか？孤独や障壁を打ち破り、全ての人が自律と社会性を獲得するためにテクノロジーにできることは何か？

Beyond GDP: 新時代の幸せとは？

Robin Takashi Lewis / 一般社団法人Social Innovation Japan 代表理事

鈴木 絵里子 / Kind Capital 代表取締役

諸藤周平 / REAPRAグループ CEO

井上高志 株式会社 / LIFULL 代表取締役会長

「GDPを超えて」というテーマで行われた第2回目のトークセッションでは、経済成長だけでは測れない幸福の新しい指標について議論が行われた。Social Innovation Japanの共同CEOであるロビン・タカシ・ルイス氏は、金銭では計り知れない価値について問いかけ、「清潔な空気や友情、愛情といったものにどのように経済的価値を付けるか？」という疑問を投げかけた。

また、彼は「毎分15挺の銃が製造され、23,000発の弾丸が生産されるが、これもまたGDPを増やす活動の一部だ」と指摘し、GDPが善悪を問わず経済活動を測定する問題点を強調した。

Kind CapitalのCEO、鈴木絵里子氏は、技術革新が幸福を追求する手段として重要であると述べつつも、技術だけでなく人間の価値観や心構えの重要性を強調した。ライフルの井上高志氏もまた、自身の経験を通じて「利他主義が幸福の源泉であり、人のために行動することで自分自身も満たされる」と語った。

注目されたのは、諸藤周平氏によるグロス・ドメスティック・ウェルビーイング（GDW）の提案である。彼は「地球環境の維持と人間の幸福はGDPだけでは測れない」と述べ、新たな指標の必要性を強調した。このセッションを通じて、経済成長を超えた新しい幸福の尺度が提案され、特に若者たちがその実現に向けてどのように貢献できるかが議論された。



Technology for wellbeing: テクノロジーでつなぐ未来の幸福

Doga Makiura / Degas Ltd. Founder & CEO

Suya / Sheis DAO Co-founder&CMO

Julian Castellon Odabachian / Biomechanical Engineering of Augmental Tech

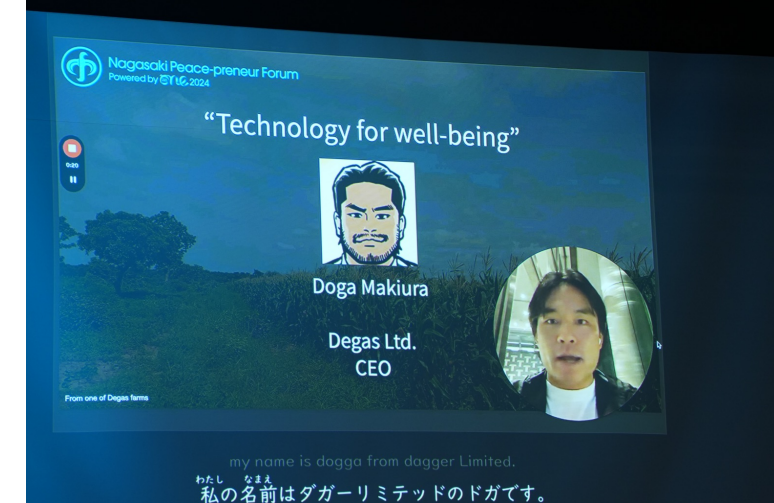
高木萌子 / デジリハ Global Partnership アジア担当マネージャー

テクノロジーが社会の不平等を解消し、特に発展途上国や障害を持つ人々の生活を改善する可能性を探るセッションが開催された。最初に映像で登場したDegas Limitedの創業者、Doga Makiura氏は、アフリカの農民の収入向上を目指すプロジェクトを紹介。「農作物の生育状況を可視化し、炭素クレジットを通じて追加収入を得る仕組みが、教育や医療へのアクセスを改善する」と語った。

続いてSuya氏は、Web3テクノロジーを活用した女性のエンパワーメントの取り組みを紹介。SNSユーザーがコンテンツに投票し報酬を得る仕組みが、女性の自立を促進するという。Suya氏は「Web3は新しい学びの場であり、誰でも新しいことを学べる」とその可能性を強調した。

Augmental TechのJulian氏は、障害を持つ人々が口腔内デバイスを使ってコンピュータを操作できる技術を紹介。技術がすべての人に平等にアクセス可能であることの重要性を述べた。最後に、デジハリの高木萌子氏が、リハビリを楽しくするためのゲーム化されたアプリを紹介し、「リハビリを楽しくすることで、子供たちが笑顔になり、その笑顔が親や周囲の大人たちにポジティブな影響を与える」と語った。

このセッションでは、テクノロジーが社会問題を解決するための強力なツールであることが再認識され、その活用法について多くのインスピレーションが提供された。



Citizen empowerment

世界はつながっている。私たちは皆この世界の一員であり、地球市民だ。
私たちはどのようにしてこの運動に力を与えることができるのだろうか？

Talk Session 「Power to the people」

私たち一人ひとりには世界を変える力がある。世界の人々がひとりひとりの力を自覚し、行動するためにできることとは何か？

Talk Session 「Humanity Needs Us」

国際人権規約には奴隷禁止や市民的・政治的権利での男女平等のほか、世界中の誰もが、恣意にその生命を奪われない「生命権」が規定された。歴史的成果を日常生活に定着させ、平和に活かすためにできることとは？

Power to the People: 未来を創る力

Aminetou Bilal / Selfie Mbalite 代表

Robin Takashi Lewis / 一般社団法人Social Innovation Japan 代表理事

Margianta Surahman Juhanda Dinata / Founder of Emancipate Indonesia

高田春奈 / 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）理事長

辻井隆行 / Jリーグ理事

「Power to the People」をテーマに、個々の行動がどのように社会変革を引き起こすかが議論された。モリタニアの平和活動家アミナ・トビラル氏はビデオメッセージで「愛と優しさの行動が平和文化を育む」と述べた。Robin氏は、東日本大震災後のボランティア活動を通じて自身を見つけ、社会に貢献する方法を学んだと語った。彼の取り組む「Social Innovation Japan」とプラスチック削減アプリ「MyMizu」は、社会問題に対する実践的な解決策を提供している。

インドネシアのMargianta氏は、祖父が喫煙によって亡くなった経験が、タバコ産業の広告に立ち向かう活動の原動力となったと語った。WEリーグの高田春奈氏は、日本の子供たちが自己評価を高めることの重要性と、特に女性の地位向上が課題であることを強調した。

最後に、Jリーグの辻井隆行氏が自然とのつながりを通じて環境問題への関心を深め、「スタジアムでの水補給ステーションの設置」など、持続可能なビジネスモデルへの取り組みを紹介した。彼は「個々の小さな行動がシステムの変化を引き起こす」と述べた。このセッションでは、若者の行動が未来を創る力として注目され、個々の行動の重要性が強調された。



Humanity Needs Us: 平和の声、若者の力

能條桃子 / NO YOUTH NO JAPAN代表理事

田中美穂 / カクワカ広島共同代表

Jean Linis Dinco / Human rights activist

Salam Kanhoush / Razia's Ray of Hope Foundation

このセッションでは、若者と女性の政治参加が平和と人権の実現に重要であることが議論された。能條桃子氏は、祖母の被爆体験を語りながら、「18歳から選挙に立候補できるようにし、若い女性政治家を増やすことが未来を変える一歩だ」と強調した。

セッションのファシリテーターである田中美穂氏は、「カクオカ広島」の活動について紹介し、「ただ平和を祈るだけでなく、具体的な行動が必要」と述べた。シリアから逃れたSalam Kanhoush氏は、戦争から逃れた経験が平和活動への動機になったと語り、「平和という言葉が贅沢に感じる」と述べた。彼はまた、難民としての厳しい現実を共有し、人道的支援の重要性を強調した。

フィリピンから参加したJean Linis Dinco氏は、ミャンマーのロヒンギャ問題に関する研究を通じて、経済的な不平等の解消と環境正義の推進が平和の実現に不可欠であると述べた。「本当の敵はスーツを着た人々だ」と指摘し、経済構造の問題を浮き彫りにした。このセッションでは、若者と女性の積極的な政治参加が平和と人権の守護者となる可能性が強調された。



Peace & Conflict

世界を分断する紛争が続いている。紛争の解決や平和の維持のためには対話が不可欠である。
そのために私たちにできることとは何か？

Talk Session 「For Dialogue」

対立する関係性のなかで、対話のきっかけをつくるためにできることとは何か？

Talk Session 「Social Media for Peace」

複雑化する紛争の世界で、SNSをはじめとするコミュニケーションは分断されている。紛争から平和のためのコミュニケーションを
発展・活性化させるためには何が必要か？

For Dialogue: 対話で築く平和の未来

Fang Liu / APLN Policy Fellow

中満泉 / 国連事務次長・軍縮担当上級代表

Ramiz Bakhtiar / Founder and Director, Peace in Our Schools

Alina Smyslova

対話の重要性が強調されたセッションである。中国出身のFang Liu氏は、パンデミックにより対話が困難になった状況を説明し、対話の価値を信じ続けていると語った。渡航制限の緩和とビザ申請プロセスの簡素化が対話促進に不可欠であると提案した。

中満氏が国連が紛争当事者間の対話を促進する際に従う原則について説明。これらの原則には、公平性、誠実さ、秘密保持が含まれており、対話を通じて共通の基盤を見つけることの重要性を強調しました。

ウクライナ出身のAlina Smyslova氏は、「対話の継続が最も重要だ」と述べ、特に第三者を介した対話の導入が有効であることを示した。彼女の話は、対話を始めることの難しさと、それを維持することの重要性を強調したものであった。

アフガニスタンからカナダに避難したRamiz Bakhtiar氏は、「対話は戦いの一部であり、平和と正義は切り離せない」と述べた。彼は草の根レベルでの平和教育が紛争解決に不可欠であることを強調し、特に若者たちが対話の力を理解し、その価値を実感することが重要であると語った。

このセッションでは、国際的な対立を和らげるための対話の重要性が再確認された。パンデミック後の世界では、柔軟な渡航制限とビザプロセスの簡素化が対話促進に不可欠であることが強調された。



Social Media for Peace: SNSで築く平和の可能性

Bibi Aziza Begham / Razia's Ray of Hope Foundation

コーリア瑠奈 / タレント

片山実咲 / Youth Leader Fund for a World without Nuclear Weapons

古田大輔 / 日本ファクトチェックセンター

Sybilla Patrizia / Documentary film director and photographer

SNSの可能性と課題を議論するセッションが開催された。アフガニスタン出身のBibi Aziza Begham氏は、女性の教育と雇用の重要性を訴え、「私たちは制約ではなく可能性で定義される世界を夢見ている」と語り、国際社会に具体的な行動を求めた。

日本ファクトチェックセンターの古田大輔氏は、SNSが誤情報の温床となり、アルゴリズムがフィルターバブルやエコーチェンバー現象を引き起こし、社会の分断を招いていると指摘。正確な情報提供の重要性を強調した。

司会のコーリア氏は、ソーシャルメディアが自己表現の場であり、少数派としての葛藤を抱える中、SNSで「仲間と繋がる喜び」を見つけたと述べたが、ディープフェイクやフェイクニュースの問題を指摘し、情報の信頼性を見極める重要性を強調した。

片山美咲氏は、Minecraftを利用した教育活動を紹介し、ゲームが新たなSNSとして対話を促進する可能性を示した。

Sybilla Patrizia氏は、SNSが大手メディアで扱えないテーマを広める力を持つとし、『生理のタブー』をSNSで配信し、多くの女性が声を上げるきっかけを作ったと話した。

セッション全体を通じ、SNSの力とリスク、誤情報の拡散防止、建設的な対話促進が議論された。



Key Talk Session ; Shorna-Kay Richards(駐日ジャマイカ大使)



Key TalkSession

Get Up, Stand Up !

Shorna-Kay Richards(駐日ジャマイカ大使)

ボブ・マーリーの「Get Up, Stand Up」が会場には流れ、ステージで参加者が踊るリチャーズ大使流の演出で、講演ははじまった。リチャーズ大使は、若者のエネルギーと信念が平和の実現に不可欠であることを講演を通して若者たちに伝えた。彼女は広島と長崎を訪れた経験を通じて、「それぞれが世界を変える力を持っている」との認識を重要視した。また、日本の浅野秀夫さんの取り組みを例に、市民社会の力が核兵器廃絶に向けた進展をもたらすと紹介した。

リチャーズ大使は「平和構築には勇気が必要であり、特に女性の参加が不可欠である」と述べ、「女性はテーブルに座らなければならない」という言葉で多くの若い女性にインスピレーションを与えた。彼女は、被爆者の証言を聞いて「二度と繰り返してはならない」という決意を新たにし、その後の国連での核兵器禁止条約の交渉に参加するなど、小さな島国ジャマイカの代表として強い主張を続けてきた。

最後に、彼女はボブ・マーリーの「決して戦いを諦めないで」という言葉を引用し、参加者に対して「私たちは無力ではなく、共に声を上げることで平和を実現する力を持っている」と呼びかけた。この講演は、若者たちに平和の実現に向けた行動を起こす勇気を与えるものであった。



Day2

5/12

Workshop Day

Special Talk

健康と持続可能性の未来：Wellie Bitesの成功と挑戦

Sara Serray / Founder & CEO of Welliebites

スウェーデンの薬剤師でヘルスコーチでもあるサラ・サライは、2018年に創業したキャンディーブランド「Wellie Bites」について講演した。Wellie Bitesは砂糖不使用、グルテンフリー、ビーガン対応のグミで、ビタミンとミネラルが豊富に含まれている。サラは、健康的で美味しいキャンディーを作るという思いで、自宅から製品開発を始めた。

彼女の起業の旅は、スウェーデンでの市場リーダーシップの確立や他国への展開を経て、多くの賞を受賞する成功を収めた。一方で、投資家との困難なパートナーシップに直面し、会社を買い戻す決断を余儀なくされるなど、破綻の危機も経験した。転機となったのは、テレビ番組「ドラゴンズ・デン」への出演であり、これがメディアの注目を集め、成功への道を開いた。

Wellie Bitesの特徴には、パーム油不使用や天然甘味料の使用があり、健康志向の個人や家族、特別な食事が必要な人々をターゲットとしている。サラはまた、環境的および社会的持続可能性の重要性を強調し、特に女性や外国人背景の人々の起業を支援することを目指している。

この講演は、持続可能で健康的な生活を推進するための彼女の取り組みと、それに伴う挑戦を乗り越える姿勢を強調するものとなった。



Workshop Day (5/12-Day 2)



ワークショップは「平和のためのイノベーションの実現」を掲げる本フォーラムにおいて最も重要な要素です。
ワークショップでは1日目に登壇した多くのスピーカーがメンターとして参加し、みなさんをサポートしました。
世界で活躍するリーダーとより近い距離で密なコミュニケーションの機会を得ることができました。



Presentation

今回のイベントでは、平和推進と福祉向上に焦点を当てた多彩なワークショップとプレゼンテーションが行われた。参加者たちは、GDPを超える価値、福祉のための技術活用、市民のエンパワーメント、対話の重要性など、幅広いテーマにわたる議論を行い、具体的な行動計画を発表した。

Beyond GDP: 幸福の新たな指標を探る

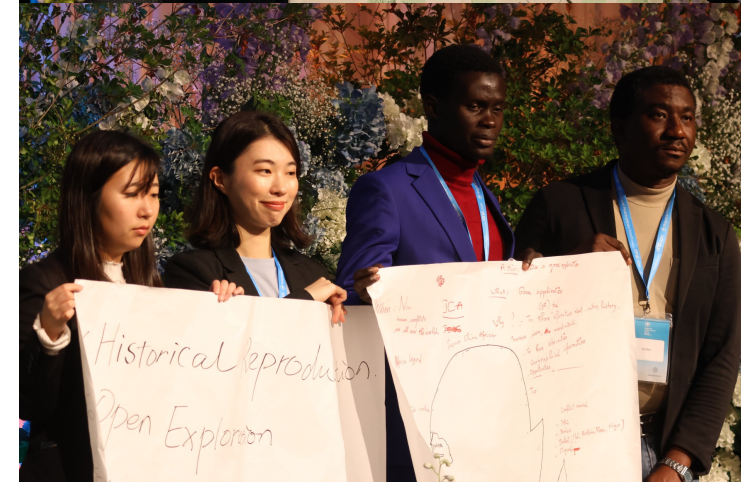
このワークショップでは、従来のGDPに代わる幸福の新たな指標を模索する提案が行われた。特に注目されたのは、リソースが豊富な高齢者と、時間とエネルギーを持つ若者を結びつける物々交換システムである。このシステムでは、若者が高齢者に技術的サポートや日常的なヘルプを提供し、その代わりに高齢者から知識や経験、生活の知恵を学ぶという形で相互に支え合う。さらに、SNSを活用して若者向けに情報を拡散する一方で、高齢者には新聞やチラシなど伝統的なメディアを通じて情報を提供するという多面的なアプローチが提案された。

Technology for Well-being: 教育ゲームでアフリカ史を学ぶ

このワークショップでは、教育ゲームを通じてアフリカ史の理解を深める提案がなされた。具体的には、アフリカ史の重要な時代や出来事をテーマにしたオープンワールドのゲームが提案された。このゲームでは、プレイヤーが仮想世界を探索し、ミッションをクリアしながらストーリーを進めていく。各ミッションには、その時代の歴史的背景や文化に関する教育的なコンテンツが組み込まれており、キャラクターの成長とともにプレイヤーの歴史理解が深まる設計となっている。教育とエンターテインメントを融合させることで、より多くの人々にアフリカ史の重要性を伝えることを目指している。

Power to the People: 市民の声を政治に反映

市民のエンパワーメントをテーマにしたこのワークショップでは、複数の革新的なアイデアが提案された。まず、政治家のキャラクターを公約以上に紹介するエンターテインメントテレビ番組が提案された。この番組では、政治家の個性や日常生活に焦点を当て、視聴者に彼らの人間性を感じてもらうことで、政治への関心を高めることを狙っている。また、「Global Connect」というピアエンパワーメントアプリも提案された。このアプリは、ユーザーが環境、社会、政治問題に関する情報を交換し、意見を共有するプラットフォームであり、若者が社会問題に対してより積極的に関わる機会を提供することを目的としている。



Presentation

今回のイベントでは、平和推進と福祉向上に焦点を当てた多彩なワークショップとプレゼンテーションが行われた。参加者たちは、GDPを超える価値、福祉のための技術活用、市民のエンパワーメント、対話の重要性など、幅広いテーマにわたる議論を行い、具体的な行動計画を発表した。

Humanity Needs Us: マイノリティの権利を守る

このセッションでは、特に人権保護に焦点が当てられた。提案されたアイデアの一つは、教育システムの改革である。これは、自己分析を促し、家庭環境の影響を見直すことで、適切な行動を選択する力を育てるものである。さらに、「Matchange」というアプリの開発も提案された。このアプリは、活動家や人権擁護者がアイデアを共有し、インスピレーションを得る場を提供する。ユーザーは、同じ志を持つ他の人々とつながり、共同でプロジェクトを進めることができる。

For Dialogue: AIで平和教育を進める

このワークショップでは、AI技術を活用した平和教育の可能性が議論された。提案の中心は、AIを使って平和教育コンテンツを作成し、グローバルな視聴者に向けた魅力的な教育プログラムを提供することだった。さらに、AIを活用してヘイトスピーチを監視し、オンラインでの対話の質を向上させるシステムも提案された。このシステムは、特定のキーワードやフレーズを検出し、自動的に対応することで、健全な対話環境を保つ役割を果たす。

Social Media for Peace: デジタルキャンペーンの力

ソーシャルメディアを活用した平和推進の方法が多く提案された。このワークショップでは、フェイクニュースの特定や新しい教育プラットフォームの開発に加え、「8月9日の1分間の沈黙」キャンペーンが特に注目された。このキャンペーンは、長崎原爆の日にSNSから一時的に離れ、内省を促進するシンプルなビジュアルを共有するものである。キャンペーンの目標は、参加者に平和の重要性を再確認させ、世界的な意識を高めることである。



Feedback：次世代リーダーへの期待と評価

このイベントを通じて、次世代リーダーたちは平和と持続可能な社会の実現に向けた具体的なアクションプランを提示した。彼らの情熱と行動力は、投資家や行政から高い評価を受け、地域社会や国際社会における新たなリーダーシップの可能性を示した。長崎市と長崎県は、今後もこうした若者たちの活動を支援し、地域の課題解決に向けた取り組みを続けていくことが期待されている。

投資家とスタートアップ支援者からのコメント

GX Partners LPの中原氏は、アフリカのゲームアプリチームとサブウィートチームを特に高く評価した。彼は、「ゲームの力を使って社会課題を解決するアプローチは素晴らしい」と述べ、日本企業がアフリカへの投資を拡大している背景を挙げ、ビジネスチャンスが広がる可能性を指摘した。また、サブウィートチームについては、高齢者と若者をマッチングさせるアイデアが、日本社会の課題である高齢化に対応する上でタイミングが良いと評価した。Startup Ecosystem Association Japanの藤本氏は、起業家精神の本質が異文化や異なる組織をつなぎ、新しい社会を導くことにあると強調した。「Peace-preneurの皆さんの発表は、平和の意味と新しい視点を見事に融合させていました」と述べ、互いに助け合う姿勢を称賛した。MTG Venturesの伊藤氏は、発表されたアイデアが世界中の社会問題に対して深く広がる可能性を持っていると評価した。「課題の深さと大きさ、そしてアイデアの広がりや速さが印象的です」と述べ、良いビジネスアイデアが急速に広まる現代のスピード感を指摘した。SG Incubateの宮崎氏は、参加者たちが短時間で協力して課題解決のアイデアを生み出したことに感銘を受けたと述べた。彼は、ビジネスプランの詳細よりも、若者たちが大きな課題に取り組む情熱と多様な背景を持つ人々との協力が重要であると強調した。

長崎市長・県知事からも

長崎市長の鈴木氏は、参加者たちのプレゼンテーションを「斬新でイノベティブなアイデア」と評価し、長崎市が直面する高齢化と人口減少の課題について言及した。彼は、経済再生と子育て支援の取り組みを紹介し、「サステナブル、グローバル、デジタル」という三つのキーワードが今後の施策の中心であると強調した。長崎県知事の石井氏は、各チームのプレゼンテーションが社会問題に真摯に向き合う姿勢を示していたことを評価した。彼は、「市民の力が重要であり、一人ひとりが課題解決に向けて行動することが必要です」と述べ、GDP以外の指標や対話、人道主義の重要性を指摘した。また、テクノロジーの活用が平和で持続可能な社会を築くために不可欠であると述べ、若者たちが次世代のリーダーとして期待されていることを強調した。



Day3

5/13

Excursion

Excursion

13日は希望者に対して、長崎の事業者である「Peace Education Lab Nagasaki」が、原爆資料館—平和公園周辺のツアーを実施し、長崎での学びを深めた。



協賛社一覧(全42社)

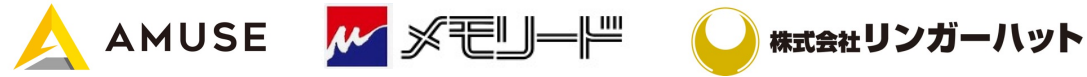
・ホストシティパートナー(2社)



・奨学金パートナー(1社)



・メインステージパートナー(3社)



・サブステージパートナー(2社)



・サポーターパートナー(11社)



・ローカルパートナー(29社)

社会医療法人春回会井上病院 株式会社イシマル 九州電力株式会社長崎支店 株式会社九州博報堂長崎支社
九州旅客鉄道株式会社長崎支社 社会医療法人健友会本部 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
株式会社五島列島なかむらただし社 有限会社新明企画 ジービーエム株式会社 株式会社谷川建設 第一生命保険株式会社長崎支社
株式会社テレビ長崎(KTN) 株式会社長崎ケーブルメディア 株式会社長崎国際テレビ(NIB) 長崎食糧倉庫株式会社
株式会社長崎新聞社 長崎電気軌道株式会社 長崎文化放送株式会社(NCC) 税理士法人波多野アンドパートナーズ会計事務所
星野管工設備株式会社 みずほ証券長崎支店 三井住友海上火災保険株式会社長崎支店 三菱重工業株式会社 株式会社ユーコー
株式会社JR長崎シティ 株式会社JTB長崎支店 株式会社PROXY 株式会社SUNTAC

看板など制作物

・メインステージ



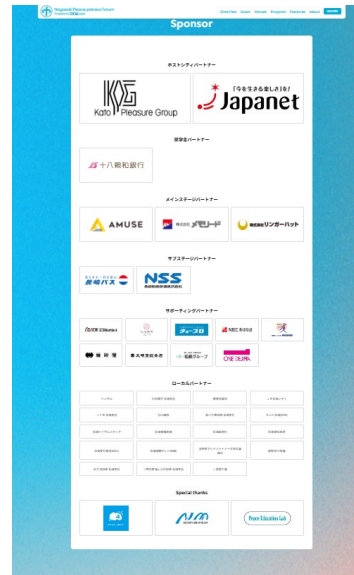
・サブステージ



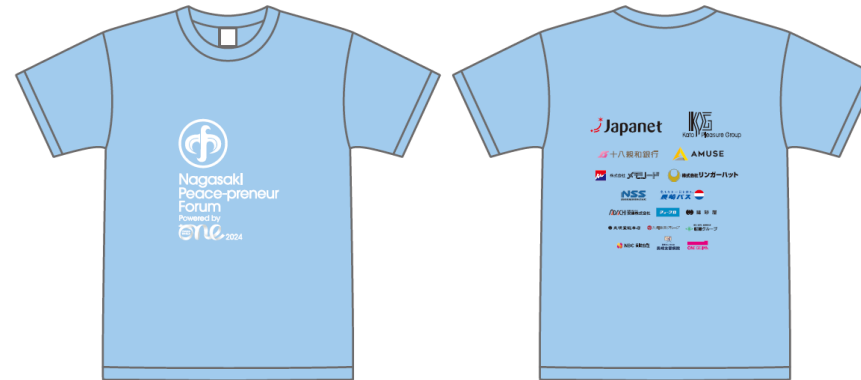
・協賛社一覧看板



・ホームページ



・ボランティアスタッフTシャツ



・当日パンフレット(コピー同封)

①長崎新聞

- (1) 2024/5/11 「企業活動から平和に貢献を」 中満泉国連事務次長
- (2) 2024/5/11 「OYW分科会」長崎市で開催 平和テーマに世界20カ国の若者150人
- (3) 2024/5/23 多様な平和 各国若者と議論 ルポOYW長崎分科会

②読売新聞

- ・ 2024/5/12 世界の若者 平和へ集結 長崎で国際会議開幕

③西日本新聞

- ・ 2024/5/14 「若者のダボス会議」長崎市で平和テーマの分科会初開催 20か国 150人参加 国連軍縮担当中満泉氏も講演

④共同通信

- ・ 2024/5/11 長崎に若者集い、平和フォーラム 中満・国連事務次長が登壇

⑤NBC長崎放送

- ・ 2024/5/13 高校生「視野が広がった」「アイデア次第で行動できることがわかった」若者が長崎で平和について向き合った4日間 One Young World「Nagasaki Peace-preneur Forum」閉幕
- ・ 2024/5/17 「若者の平和の祭典」次世代のグローバル・リーダーが長崎で交流 One Young World「Nagasaki Peace-preneur Forum」

⑥NCC長崎文化放送

- ・ 2024/5/13 長崎ピースプレナーフォーラム初開催

⑦KTNテレビ長崎

- ・ 2024/5/13 平和テーマに世界の若者が国際会議 「いろいろなアイデア実現へ支援を」 【長崎市】

⑧NIB長崎国際テレビ

- ・ 2024/5/13 世界の若者が「平和の在り方」議論 20の国や地域150人参加 国際フォーラム閉幕<<長崎>>

参加した「長崎県立長崎東高等学校」生徒さんの感想

自分はこういったすごい大会には参加できないものだと思っていた。英語力や知識にも自信がなかった。でも、勇気を出して参加して、挑戦して本当によかった。スキルももちろん大事だけど、まずは挑戦するマインドが大切なんだと本当に確信した。本当にありがとうございました。



「パートナー企業」様のお力添えのおかげで、無事にForumを終了することができました。
ありがとうございました。